

平成29年度 学校評価アンケート集計 【教職員】まとめ

		A	B	C	D	E	総数
1	幼児児童生徒が主体的に学習に取り組むように、実態や学習内容に応じて教材や指導方法の工夫・改善を行っている。	28	25	2	1	3	59
2	体験活動は事前の指導計画や事後学習を充実させ、その後の幼児児童生徒の生活や学習にいかされている。	25	28	1	1	4	59
3	人や社会とかがかわる活動を通じて、思いやりの心や責任感、自立心を養っている。	16	36	3	0	4	59
4	教職員としての専門性と実践的指導力を向上させるために積極的に研修を行っている。	26	26	6	0	1	59
5	社会自立を目指す教育を幼児児童生徒の発達段階に応じて行っている。	18	29	7	1	4	59
6	視覚障害者に適した運動を選択し、基礎体力の向上と運動習慣の定着を図っている。	25	32	1	0	1	59
7	計画的に交流及び共同学習を推進している。	22	29	2	1	5	59
8	施設設備の安全を保ち、整理整頓をしている。	20	30	6	2	1	59
9	災害に対する正しい知識と技能を身につけ、適切に判断して行動できる力を養っている。	17	33	5	0	4	59
10	様々な危機（災害・いじめ・不審者等）を想定した対策を進めている。	17	37	0	2	3	59
11	学校ホームページ、学校ブログ、「希望の花」、学部(学年)通信等は、保護者への情報提供に役立ち、広報としても機能している。	34	22	3	0	0	59
12	個別面談やカウンセリングなどの機会が設けられ、相談機能が充実している。	17	34	5	0	3	59
13	個別の指導計画は、個々の学習目標や指導の手立て、指導の経過や評価をわかりやすく記述し、保護者に説明している。	21	34	2	0	2	59
14	個別の教育支援計画は、本人のニーズや保護者の願いを聞き取り、共通理解をして作成している。	28	29	0	0	2	59
15	ICT機器（パソコンやタブレット等）の活用を目指し、段階的な指導を行っている。	23	34	2	0	0	59
16	福祉、労働、大学等の関係機関と連携を図り、進路に関する情報提供や指導助言を行っている。	19	26	7	1	6	59
17	教育・医療・福祉等と連携を図り、地域の視覚障害児者への支援相談を行っている。	28	26	2	0	3	59

番号	改善案等
1	できている人は、しっかりやっている。差が大きい。意識を持って、日々専門性の向上を心掛けるべき。
1	重複障害児への対応に困難を示している。知的特別支援学校から、人材を集める必要がある。重複のカリキュラムが実態に合っていない。
1	学部、学年、担任による差が大きい。
2	普通の授業の中での体験活動が少ない。調理実習を自由にできない。校外学習が少ない。
2	型にしばられて、本当に必要な体験活動ができていない子もいる。子どもにとって何が必要なことかを一番に考えてあげたい。
3	集団が小さい、他学年、他校生とふれ合う機会が少ない。（話し合い活動）
4	人（教師）によって差が大きい。視覚障害の特性を理解しようとする姿勢が感じられない場面がよくある。意識改革が必要と思うが現実には難しい。
4	全体の研修が少なく、各自に任せている状態では、評価は低くみられる。
4	今年は新しい人が増え、十分できているとは言い難い。
4	視覚障害についてはもちろんであるが、発達障害についてももっと研修をしていく必要がある。
5	臨機応変に対応できていないと思う。

5	生徒に対する接し方や言葉遣いがへりくだっていて、おかしいと感じる場面がよくある。社会の秩序を教えるためにも、教師と生徒の立場を考えて接することが必要。
5	学年が上がるほど、社会へ出た時の準備ができていないように思われる。
5	教科学習を重視していることで、自立は難しい。特に重複障害のカリキュラムは、視覚障害児教育の利点を加味しながらも、早急に改善する必（要がある。？ ←途中で文章が切れている。）
5	担任、学部によって意識の差が大きい
7	1人学級が多いので、一緒に学習できる教科は、時間を合わせてほしい。
8	以前の耐震工事で本館北階段の踊り場の窓の開口部をすべて塞いでしまったのは、本校の生徒の特質を考慮していない工事であったので、再び開口部の窓を設けて、フレームによる耐震工事を再び県に申し出てほしい。
8	古い故でもあるが、破損している箇所がなかなか修繕できていない。
8	雨漏りなど、根本的な事が、、、。
8	北校舎のトイレの老朽化。和式便器は必要ない。
8	通路にキレツが入っていたり、トイレが暗かったりするので
9	諸訓練は行っているが、生徒が受け身過ぎているし、事後の指導が不十分。避難して集まった後で、しっかりした指導をするようにしたらよいと思う。
10	不審者等の訓練を実施していない。校門、寄宿舍の出入りについてもっと検討する必要がある。
10	最も現実的な不審者への対策ができていない。校門でのチェック体制を作る必要がある。
11	学校ホームページに非常時（警報発令時）登校についての項目が明示されていればいいと思う。
12	もう少し回数を増やして欲しい。
12	十分とは言えない
13	保護者との面談の機会が少なく、あまり活用できていない。
15	タブレットなど個人では使用しているが、各教室でしっかりと使える環境かどうか。
16	困難な仕事だが、もっと進路開拓を（実習先も含めて）やってほしい。進路が外回りをしやすい体制をとれるとよいと思う。
16	福祉、就労の情報が不十分
16	大学（兵庫教育大学）、神戸視力障害センター、ライトハウス等と、もっと積極的に情報交換し、連携する必要がある。
上記以外	既に専門性を備えている職員の授業への立ち入りや人事についての工夫、研修等による専門性の伝達。
上記以外	学部間格差をなくすために、お互いの状況をオープンにして情報を共有し早期に意見交換ができることが大切。